

～はしがき～

本年も昨年に引き続きコロナ感染拡大の影響を受けました。基本的には対面でゼミを実施できました。制約のある状況ではありましたが、今年も無事に論文集が発行できることを嬉しく思っています。

本論文集はコミュニケーション論ゼミ生の今年度の成果集です。4部から構成されています。

第1部は、大学院修士論文の要旨と参考文献です。「日本語上手ですね」とほめられることになぜ不快感を覚えるのだろうかという問いに在日外国人へのインタビュー調査から迫った論文、二人称代名詞「あなた」の適切な使用状況を追究した論文、いずれも丁寧に説得力のある考察を導くことが出来ました。お二人の研究の伴走が出来て、とても楽しかったです。それぞれの場での活躍を期待しています。

第2部は4年生8名の卒業論文要旨と参考文献リストです。大学生活後半の2年間でコロナ禍での制約を強いられることになってしまいました。とはいうものの、ゼミでの学習が大きく変わることはなく、それぞれが自分のテーマを大切に育て、卒業論文という成果に導くことが出来ました。卒論発表会での報告はとても立派なものでした。不自由な中でもきっちりと成果を出せたことを誇りに思います。自信をもって人生の次のステージに進んでください。充実した人生を歩まれることを祈っています。

第3部は3年生の個人研究論文です。各自、興味のあるテーマを選択して研究しました。コロナ禍での制約はあったものの、テーマの設定、データ収集の仕方、分析の精度、論文の仕上げ方、どれをとっても一人ひとりの個性が存分に発揮された成果となっています。明確なテーマに基づいてとことん調べて考え抜くことはたやすくできるものではありません。卒業論文はまさに3年間で積み上げてきた考え抜く力の成果が発揮されます。卒論を書く準備は整ったはずです。今回の経験を踏まえて、卒業論文に取り組んでください。

第4部は、国際教養学部教養学系2期生である2年生のグループ研究論文です。コロナ禍でスタートさせた大学生活は先輩たちが過ごしてきたものとは大きく異なります。様々な思いを抱えていることとは思いますが、真摯にゼミの学習に取り組み、ゼミ生同士でのディスカッションや共同研究を重ねながら、立派な論文を仕上げる事が出来ました。この経験が今後の研究に必ず生きてきます。さらにレベルアップを目指しましょう。

2022年3月

佐藤響子

国際総合科学部国際教養学系社会関係論コース

国際教養学部教養学系

ksatoh@yokohama-cu.ac.jp

～目次～

第1部 修士論文要旨・参考文献

1. 日本語非母語話者の語りにみる日本社会におけるポジショニング：
言語能力に対する「ほめ」に着目して PIRIMOGLU BURAK 2
2. 明示的に示される「あなた」の使用機能について：
テレビドラマにおける男女会話の考察から日本語教育への示唆 周 静嫻 7

第2部 卒業論文要旨・参考文献

1. 広報誌上の社会的利益指示による行動実現：指示表現の強制力・丁寧度に注目して
. 石黒 葵 14
2. 就職活動で学生はなぜクルートスーツを着るのか：自己表現とアイデンティティの相関性
. 伊藤直輝 18
3. オノマトペにおける日本人大学生の認識の共通性 太田華代 22
4. 若者のLINEコミュニケーションに見る笑い表現の使用傾向と役割：相互作用に注目して
. 太田万結 25
5. 役割語の言語意識：プロ野球日本人通訳者にみられる異人語 小澤京介 29
6. 現代社会を象徴するボーカロイド楽曲の歌詞傾向：JPOP 楽曲の歌詞傾向との相違
. 北條菜摘 33
7. 留学生に対する日本人学生の訂正フィードバックの使用：日本語授業の参与観察から
. 吉池珠美 37
8. ディズニーヴィランズにみる言語表現の特徴：文末表現に着目して 渡邊里菜 40

第3部 3年生個人研究

1. テレビドラマ『SUITS/スーツ』からみる英語らしさと日本語らしさ 木戸映穂 46
2. LINEにおける三点リーダーの使用実態とその役割 栗田花野 55
3. 大学生のLINEでの謝罪時における絵文字使用について 黒岩桃子 64
4. 絵文字における親疎関係によって受ける印象の違い 清水早耶 71
5. 駅構内の言語景觀に見られる敬語表現 杉山香奈 84
6. テレビ番組名から見る時代の変化について 塚本佑季奈 90
7. 読者対象の違いによる翻訳版『レ・ミゼラブル』比較 長濱美瑚 96
8. 邦題の洋題化傾向 西中文恵 102
9. 大学生のほめへの返答 早川華音 108
10. 各地域における映画のポスターとその地域における芸術作品の類似性を分析する

	・・・・・・・・深谷壮央	120
11. 対面状態での会話と比較した、学生のオンラインでの会話の特徴	・・・・・・・・増子大生	124
12. 近年の流行歌の歌詞にはどのような特徴があるか	・・・・・・・・湯地 調	132

第4部 2年生グループ研究

1. 先行発話から見る「確かに」と「わかる」の使い方の傾向	・・・・・・・・島朋生・田村安澄・中島胡桃	146
2. 会話における「なんか」の分類と傾向	・・・・・・・・赤沼七香・岡戸悠里・黒田倫未	152
3. 多人数対話における発話量の比較と発話展開にみられる特徴：発話量の多い人に着目して	・・・・・・・・倉内花・村田愛佳	159